

当事者意識で 意見を成長へ

佐藤渡辺の女性技術者 と役員が意見交換会

佐藤渡辺は、12、13の両日、女性技術者による安全パトロールと役員との意見交換会を実施した。安全パトロールには、女性技術者13人のほか、堂尻伸二安全環境部長ら計18人が参加し、東京都江東区青海地内で施工を進める「令和5年度青海埠頭ヤード改修工



事（第1期）」（発注者＝東京港埠頭）の現場を視察した。役員との意見交換会には鎌田修治社長や金井義治専務らも出席し、忌憚（きたん）のない意見を交わした。写真。

パトロールは、女性技術者同士の懇親と、現場の安全や作業環境、働き方改革の実態を把握した上で、女性技術者としての対策や意見を得ることを目的に実施している。

役員との意見交換会では、「仕事について思うこと」

「会社への要望」「女性技術者が入社、定着しやすい環境とは」などのアンケートに対する回答を基に意見を交換した。冒頭、鎌田社長は「皆さんの立場は若手の女性社員だが、意識は社長であってほしい。当事者意識を持ち、改善点をはっきり言える社員になることを願う。皆さんの声が

佐藤渡辺の繁栄に必ずつながると信じている」と呼び掛けた。

女性技術者からは、自身が抱える悩み、職場の課題、人材確保に向けたアイデアなどの意見が出た。「フレックス

タイム制度の導入や、自社や他社の女性社員との意見交換の場がほしい」といった要望があった。金井専務は「女性管理職の割合をさらに上げた。皆さんの成長、活躍を期待している」と述べた。

終了後、参加者からは「意見を取り入れよつとする考えや、女性技術者を増やそうとする意志があると理解できた」「女性社員が残ってほしい思いは伝わった」との感想が寄せられた。

